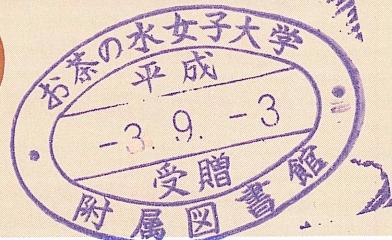


# 幼児の教育

1991

9



# 保育の計画・作成と展開

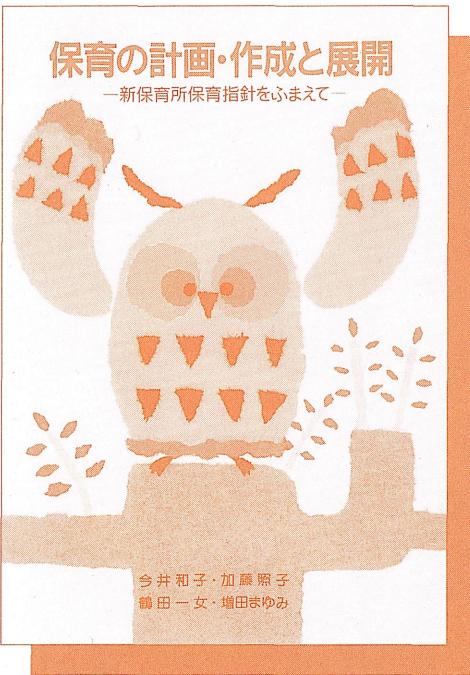
—新保育所保育指針をふまえて—

今井和子・加藤照子・鶴田一女・増田まゆみ 共著

★新保育所保育指針をふまえた指導計画書です。

★子どもの実際、保育の実際の姿から立案する指導計画の具体例です。

★0歳ー5歳及び縦割保育までを掲載しています。



- 保育所の特性を考慮した計画です。
- 子どもにとって望ましい保育という視点から立案した計画です。
- 計画作成の要点を具体的に解説しています。
- あなたの園の実態に合った計画作成の手引きとして役立ちます。
- 各年齢別に、年間、月、週の指導計画例を掲載しています。
- 計画の展開例として、保育の実践例を付け、計画と保育の関連がわかるように配慮しています。

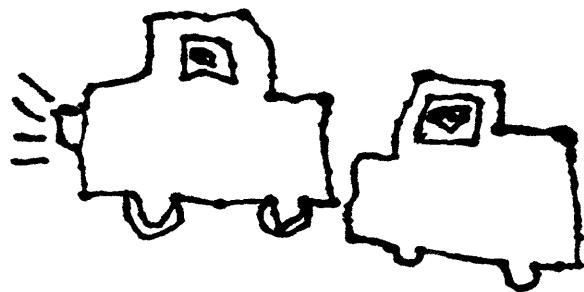
B5判・208頁

定価1,800円(税込)

くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所または本社総括部(03)3292-7783(代)にお問い合わせください。

キンダーブックの  
**フレーベル館**

# 幼児の教育



第90卷 第9号

# 幼児の教育

目次

第九十卷 第九号

次

© 1991  
日本幼稚園協会

△巻頭言△二人の「みなし」

三木 紀人 (4)

保育者が生命的になるように

津守 真 (6)

幼児虐待を考える(3)

電話相談 「子どもの虐待ホットライン」

平田 佳子 (10)

附属幼稚園の教育(6) 二学期の保育

山本 政人 (18)

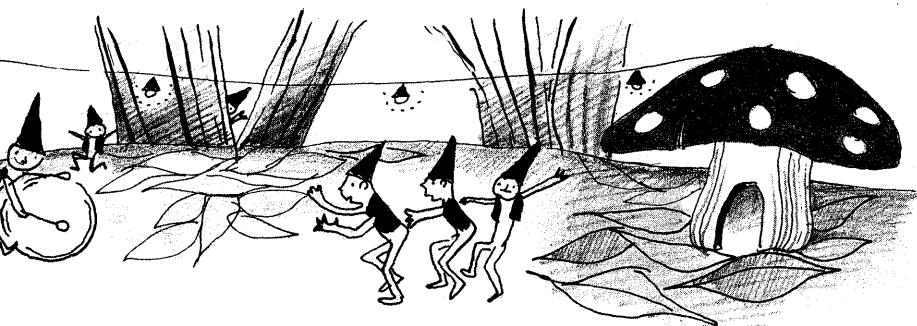
テレビゲーム——情報化と想像力

村石 京 (22)

チエコ便り(9) J・A・コメンスキー

T・G・マサリクの講演から(2)

大槻 優子 (30)



ひとりとひとり

一卵性双生児子育て記 0歳～3歳

須藤 麻江 (35)

守永 英子 (44)

思い出の中の保育 (4)

佐藤 和代 (48)

保育者養成の今日的課題 (5)

少子化傾向を中心として 心理劇の活用 その2 前田あけみ (48)

ある日の育児日記から (9)

佐藤 和代 (56)

若いお母さんたちへ

見えないものから育つ 榎田一三子 (57)

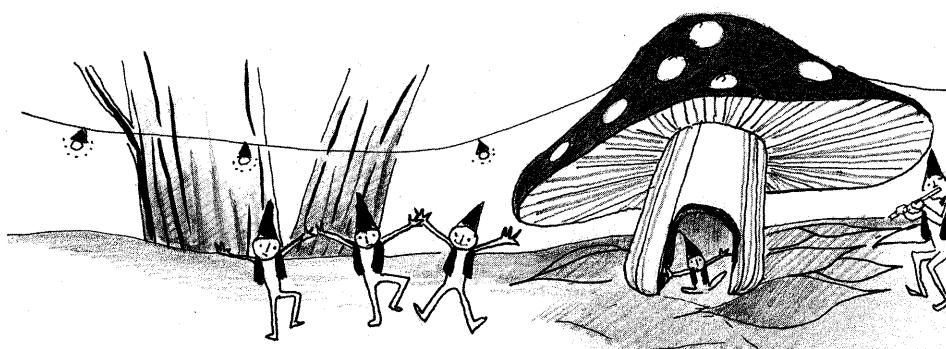
表紙版画・樺村 文夫／扉題字・堀合 文子

扉カット・お茶の水女子大学附属幼稚園園児

カット・福田 理恵

編集委員・本田 和子／豊田 一秀・吉岡 晶子

編集部・大沢 啓子



## △卷頭言△

### 一 人 の 「みなしご」

三木 紀人

鎌倉初期の高僧慈円は藤原摂関家の生まれで、天台座主などを歴任、宗教および政治の世界でもっとも時めいた人であった。しかし、その絢爛たる人生の裏に深い淋しさがひそんでおり、それを表現した和歌が約六千首伝わっている。その内の一首

みなしごのたぐひ多かる世なれども

ただ我のみと思ひ知られて

は、彼が二十代に入つて、青年僧として難行苦行にとりこんでいた頃の作である。

慈円が上の句で歌つているのは、天変地異や戦乱

のあいつぐこの時代の世相である。人々はあわただしく死なねばならず、そのあとに残された孤児はたしかに多かったと思われる。慈円は、その情況を見

ながら、自分のみが孤児であるかのような錯覚を持ちつけたようである。反面、彼は民間の貧しい孤児たちと違つてきわめて恵まれた境遇にあり、両親は幼少時に失つたが、栄達していく同母兄が三人もあり、兄弟相互の結束は固かつた。にもかかわらず「ただ我のみ」と感じてしまうのは、慈円が孤独感や自我意識のなみなみでない人であったことの現れで、両親の喪失は、その気質形成の原因というよりも、彼の感情を促進し、深化する、いわば第二次的体验であったのではなかろうか。

慈円と同世代の鶴長明についても似たようなことが言える。彼は晩年に遁世し、『方丈記』という傑作を書いて歴史に残った人であるが、遁世に先立つ

て歌人として活躍し、その頃のことが、知人源家長の日記に記されている。家長ははるかに年下であるが、その彼の印象に残る長明は、「みなしご」としての逆境に堪えつづけなげに生きる男であったといふ。同じ把え方は長明の若き日の師の言にも見え、長明への理解に際して、彼の孤児性が一つの鍵であつたらしいことがうかがえる。

ただし、「みなしご」とは、言葉の正しい使い方によるなら「こ」（子）の一種にほかならないはずであるが、長明が父を失ったのは十八、九歳の時で（母については不明だが、それ以前か）、当時のならわしからすると、成人してからのことと思われる。つまり、長明は「みなしご」と呼ばれるにふさわしくないのである。従つて、この語で彼の特性が示されているのは不思議といえよう。

慈円と長明はもちろん「みなしご」としてきそいあつたわけでもなく、一方がもう一方に影響を与えただわけでもなさそうである。たまたま似たようなも

のを共有していたのであろう。彼らは実感にもとづいて人間を淋しい存在と理解し、その理解を深めるための方法として、実質以上に自分を逆境に置いて何かを考えることになったのかもしれない。保護者がなく未成熟な者が世界にさらされるとどのようになるか。また、その者の目に世界や人生がどのよう映るか。慈円や長明の作品にそうした問い合わせへの答が、折りにふれて見え隠れし、われわれの共感や感動を誘うのである。

たまたま私が関心を持つ二人を例にとつたが、古今東西の歴史に類例は多いであろう。彼らは、いわば淋しさの底からさまざまのものを発見したが、児童教育で望まれているような「よりよい教育環境」（幼稚園教育要領）で育つた人間は何をいつ発見していくことになるか。期待と不安をこもごも持ちつつ、幸福そうな園児たちを見つめることがある。

# 保育者が生命的になるように

津守 真



## 共犯者になる

先日、四年生のS君が地下の教材室に私をつれてゆき、黒い版画用インキをローラーにつけ、ドアを閉じ、電灯を消し、真暗闇の中で私を部屋の隅に座らせた。しばらくの時間息をこらして動かない。やがてくすくす笑って私の膝に座った。暗闇の中で黒インキを手にして、黒づくめで。何だかおかしくなって一緒に笑った。

S君はいつも流しに洗剤を流したり、ワインあけで厚い木の板やプラスチックや思いがけないものに穴をあけたり、次から次へとよく思いつく感心するくらい大人の意表をつい

たことをやつてのける。大人が普段の環境を保とうと思つたら困らされることが多いので、こちらも一緒になつてやつてみる覚悟かいるのである。

この日、一日の保育が終わつてから、職員たちと教材室の暗闇の中のことを話した。何人かの人たちが経験をもつていた。これはどう考えたらいいのだろうかと私が問うと、よくこの子とつき合うひとりの職員（＊）が、それは共犯者になつた感じだと言つた。人目を避けて、二人きりで、秘密にわくわくすることをやろうよといふみたいだという。とたんに私も少年の頃のことを思い出した。大人の目の届かないところで、友だちと、大人からは叱られそうなことをする、スリルのある面白さはいまでも忘れ難い。S君の暗闇の中のことはある時の感覚に近いのではないかと思つた。

私は日頃子どもの能動性を尊重したいと思つてゐる。この子といるときにもこの子が思うようにやらせてあげようと思つてゐる。しかし共犯者にはなつていない。どんなにやられてやつても、よき管理者、よき校長としてやらせてあげてはいるのである。だからあたりが汚れないように始終拭いたり片付けるのに一生懸命である。この子は部屋を暗くして管理者に怒られそうなことを一人でやろうよと言つてゐるのに、私は、どうして電灯を消すの？ 何で黒インキなの？ と思い、それも必要ならやらせてあげようという具合である。それを何とか自分の加担者にひきこもうとしてこの子は大声をあげる。大目に見てもらつてやるのでなくして、校長先生をも共犯者にして、一緒にやろうという誘いであるこ

とに私は気付かされた。

子どもたちは学校にくるとき、今日はこんなことをやつてやろうと意気込んでくる。

二歳になる私の孫も、私の家にくるときには、ひきだしから写真を引っ張り出し、思い切り水を飛ばして遊ぼうと意気込んでくる。

その意気込みが子どもを人生と世界に対して前向きにさせる。その生命性がなかつたら、内容として価値ある活動が用意されても、最も大切なものを欠くことになる。

## 老年と生命性

子どもの生命性に対して臆せずにこたえるのは若い人である。若さはそれだけで子どもにとつて魅力である。老年期にある私は、子どものエネルギーにこたえるのに若い人とは違った仕方があるのでないかと考える。

そんなことを考えていたとき、ひとりの五歳の男の子が、庭の固定遊具に張り渡した綱にぶら下がったり、横になつたり、身体を縦横に動かして飽きることなく遊んでいるところに出会つた。若い職員は一緒に固定遊具に上がって動いている。私は一緒に遊ぼうと思つても到底同じようには動けない。また同じように身体を動かそうという気も起こらない。それだけ私はこの子の世界からかけはなれているのである。ことばをもたないこの子は、身体の姿勢の変化につきることのない感覚の変化の喜びを感じているらしい。この子

の楽しみは私の楽しみとは違うところにある。そのことを前提にしないと、子どものすることに価値を認めてつき合うことができなくなってしまう。

それから三日後に、朝この子と出会ったとき、この子はすぐに私の背中にとびついた。この前のとき私が傍にいたことが私に対する親しみを起させたのだろう。私におんぶしてトランポリンを跳べという。私にはとても若い人のようにはできないが、一緒にやろうよという意気込みにこたえて私なりにひと遊びすることはできるだろう。トランポリンの上で一緒に横になったり、ひっくり返して子どもの姿勢をいろいろに変えたりすると、子どもが私に合わせて面白さをつくり出してくれる。そのうちにこの子は衣服を脱ぎすぎて自分でトランポリンをとびつづけた。

いろいろの大人たちをみていても、今日子どもと一緒に何かをやろうという意気込みが、子どもの生活を生きたものにするように思う。大人は、性別、年齢、体力の相違などにより、それぞれに限界がある。子どもに対応する仕方は違う。そして、どの人にもそれに応じた自分自身の生命的な部分があるのでと思う。それを失わないようにするにはどうすればよいか。そこに保育者の毎日の課題がある。

(愛育養護学校)

## 電話相談

### 「子どもの虐待ホットライン」

平田 佳子

#### はじめに

昨年四月、全国に先がけて大阪に電話相談「子どもの

虐待ホットライン」が活動を開始し、一年余り経ちました。その間、寄せられた相談は一六〇〇件をこえ、ほとんど毎日、相談の絶える日はありません。

この電話相談を始めたあと、テレビ、ラジオ、新聞で児童虐待についての報道も増え、広く人びとのなかに児童虐待への関心が高まりつつあります。「子どもの虐待

ホットライン」の存在も知られ始めてきました。そして五月には東京にも「子どもの虐待一一〇番」が発足しました。

過密な都市の片隅でひそかに起ころる児童虐待を発見し、援助につなぐには電話相談がかなりの効果をあげることは疑いの余地がありません。そしていま、育児不安が広がるなかで、育児相談に対応することが広く虐待の予防となると考えられています。

## 「子どもの虐待ホットライン」の前提と定義

なにしろ「子どもの虐待ホットライン」は電話による相談ですから、実際に虐待を受けている子どもを直接みて、「虐待」の事実を確認しているわけではありません。

虐待の程度や援助の緊急性の判断をするのにも、必ずしも必要ないろいろな情報を収集することができないなかで判断を下さないといけないという限界があります。

そして虐待の範囲を行政機関や医療機関より広くとらえています。（表1参照）それは当ホットラインが緊急通報による早期発見だけでなく、虐待の予防を重視しているからです。

また電話相談を受ける時間が月曜日から金曜日の昼間、わずか六時間であることから相談する人が限られてしまい、当ホットラインの活動報告が児童虐待の一般的な傾向を示しているとはいえない。しかし行政機関や医療機関が把握できなかつた広範な虐待の状況、とくに虐待につながる予備軍の存在が浮かび上がってきたとい

えます。

## 一九九〇年度の活動報告から

この一年の相談受付全件数は一四五三件であり、電話をオーブンした日数は二三四日で、一日平均は六件となります。このうち、虐待にかかる相談は七〇八件で、全体の四八・八%を占め、一日三件です。

相談者は十歳未満から七十歳以上と幅があり、二十歳代が最も多く、次いで三十歳代です。女性からの相談が九割を占めています。

虐待にかかる相談のうち、虐待者からの相談が約四分の三（五三四件）であり、二十歳から三十歳代の母親からの相談が九割を越えています。この数は予想をはるかに越えたものでした。母親のうち実母がほとんどです。「母性神話」やいわゆる「継子いじめ」の既成概念はみごとに覆つた結果といえます。

一般に、虐待者とは自分が「虐待」であると意識して

いる「しつけ」「体罰」あるいは「禁止」はしているが、「虐待」とは認識していない場合があります。当ホットラインでは虐待の範囲を表1のようにその重症度を定めて判断しています。

次に虐待の型は身体的、心理的、性的そしてネグレクト

トの四つに分類しています。そのうち、一番多いのが身体的虐待で、ネグレクトや性的虐待は少なく、まだ電話相談につながりにくいところがあります。

被虐待児からの相談は三九件、十歳代が多く、身体的虐待を訴えるものについて性的虐待が二割を越えていま

表1 重症度の判断規準

|         |  |
|---------|--|
|         | 身体的暴力によって生命の危険がある<br>生命に危険あり<br>現に子どもの成長や発達に重要な影響が生じているか、その可能性がある。<br>家族の指導か子どもの保護が必要。 |
| 重度      | 長期に見ると子どもの人格形成に重い問題を残すことが危惧される。<br>自然経過でこれ以上の改善が見込めない。                                 |
| 中度      | 一定の制御があり、一時的なもので親子関係には重篤な病理が見られない。   |
| 軽度      | 「叩いてしまいそう」「世話をしたくない」などの子どもへの虐待を危惧する訴えがある。  |
| 虐待の危惧あり |  |

児童虐待防止協会

す。少年少女からの相談は大人ですら相談をするのにためらいがあり、家族関係のなかでおこる極めてデリケートな問題ですから、相談の受け手としては十分な配慮が必要です。

被虐待児全体を見ると、五歳以下の子どもが六六%で、二、三歳が最も多く三〇・五%，男女の比率はほぼ同じです。この時期は反抗期が現出する時期であり、か

つ一般的には第二子ができる頃で、母親の育児負担が増大しつつある時期にあたります。

虐待の型と年齢を見ると身体的とネグレクトは就学前の子どもに多く、性的虐待は小学校高学年に見られます。心理的虐待は全体に広がっています。

過去に虐待の経験を持つ人からの相談もあり四十歳以上の人も五人含まれています。今まで誰にもいえなかつた過去のつらかった体験を語り、気持ちの整理を図つたのです。

以上、相談者を中心にして相談の概要を述べたのですが、この「子どもの虐待ホットライン」は今までなく「子ども」と「虐待」に焦点をおいた相談です。ところがこのホットラインが一年間に受けた相談の内容は児童虐待にかかる相談だけでなく、非常に多岐にわたるものでした。

「子ども」ということで育児やしつけの相談はもとより登校拒否、いじめ、非行、体罰、学業成績の相談など虐待と直接につながらないと思われる相談があり、一方、「虐待」ということから夫が妻に暴力をふるう、孫が祖母を虐待する、成人した女性が実父から虐待されて重症度も緊急度も高く、通報の内容は身体的虐待に次い

でネグレクトのケースです。同居している家族からの相談が多く、とくに母親が父親の子どもに対する身体的虐待を相談してくるケースが目立ちます。隣人からの通報や別居している親族からの相談も多く、いずれも援助機関に紹介状を送ったり、連絡せねばならない深刻な相談が多く見られました。

いるとの訴えなど現代社会のもの家族病理の様相を伺わせるものです。

そして、先にも触れたように虐待者本人からの相談が多く、しかも若年層の母親が圧倒的であったことは全く予想しなかつたことでした。が、虐待者からの相談は、概して気軽に援助を求め電話してきたという感じではなく、ホットラインの存在は以前から知っていたが、かけるかどうかを迷いながらかなりの時間を過ごし、やっと決心してかけてきたという感じの電話も多かったのです。

たしかに、このホットラインで見る限り、虐待者はほぼ女性であるという結果ですが、電話をかけてくる女性の虐待者は虐待する自分に対して罪悪感や不安を感じ、なんとかやめたい、そういう自分に耐えられない、自分を変えていきたいと思っている母親が多いのです。

男性が虐待者の場合には、妻や親族など目撃者からの電話が大半で、自分からの相談は極めて少ないのです。ここに大きな一つの特徴が見られます。

### 相談事例

ここでは具体的にかかってきた相談を紹介します。まず「虐待が危惧される」と判断した事例です。

\*

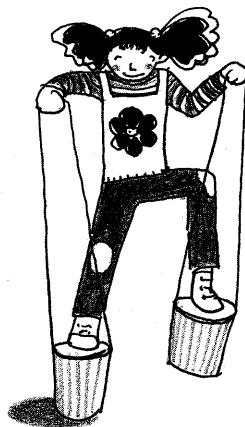
#### 事例 1

母親は三歳の娘が最近、性器いじりを始めたことを主訴に話し始めました。しばらく育児の大変さに共感しながら聞いていると、まだおむつのとれない腹立たしさや、育児に対するいらいらした気持ちを訴え出しました。そして本当は子どもが可愛くないともらし、子どもがまとわりついてくると「あっちへいって」といつてしまったり、物を当たらないように威嚇して投げたりすることが頻繁になつたといいます。「欲求不満がたまっているのです。子どもから逃れたいだけなのかもしれません」と自分自身の洞察を深めながら綿々と吐露していくところは知的なふつうの母親というイメージでした。自

分のしていることが正しいかどうか一度聞いてみたかっ  
たといいます。カウンセラーは「母性はもともとあるわ  
けではなく育んでいくものじゃないかなあ」と語りあい

ながら四十分ほど傾聴していると「少しうつかりしまし  
た。また頑張ってみます。」といって電話を切られまし  
た。この事例の場合、カウンセラーは母親に自分から援  
助を求める力があると判断し、一度保健所で相談してみ  
て下さいという形で終了しています。

この母親にはこれといった生活の不満や不足は見当た  
りません。しかし都会のマンションの狭い部屋で子ども  
と一日むかいいあい、話をする相手もなく過ごしている孤  
独な若い母親の姿が想像できるのです。周囲には相談で  
きる人もなく、夫の理解もむずかしい状況です。この母  
親と子どもの関係は悪循環していけば虐待へとエスカ  
レートしていくかもしれません。虐待の裾野に広がる人  
達のひとりと考えられます。



だけでなく電話相談による援助の方法と関係機関との連  
携について説明します。

#### \*

#### 事例2

二児の母親で三歳の息子にのみ腹が立ち、カッとして  
あざができるほど殴ったり、蹴ったりしてしまったという  
ものです。とくにせっかく作った食事をひっくりかえさ

次の事例は「重度」と判断された事例です。相談内容

れた時などは頭にきて、これまで首に手をかけたことが何度もあったといいます。いま母親の不安はいつかこの子に大きなかがをさせるのではないかということです。そして大きな不満は夫の帰宅が遅く、専業主婦なのだから子育てぐらいあたりまえととりあつてくれないことです。母親自身、子どもの頃受けた虐待の体験を語り、いまの自分はあの時のことが原因なですかと尋ね、カウンセラーは言葉に詰まってしまいました。

この母親をとりまく状況を見ますと、生活上の実質的な困難さは見つかりません。経済的には安定していますし、住居は都心に近いマンションです。公園が近くにないために子ども達を遊びに連れていけず、母子双方に友達ができません。そしていま夫との折り合いが悪く全く協力が得られません。母親の実家とはほとんど交渉がありませんし、夫の実家は遠く離れた地方で行き来はありません。下の子は一歳半で手がかかり、目が離せません。

このような育児の危機に母親の周りには援助者も相談

者もいないという背景がありました。また虐待の対象となつた上の子が未熟児で生まれ、母親の育児負担感が強かつたこと、母親が愛情を受けて育つていなかつたことなどが複合的に作用して虐待に至つたと考えられます。

この事例の場合、まず母親の訴えをよく聞きました。

アドバイスやコメントを入れずに専ら傾聴しながら、虐待の状況や家族関係、近隣や親族との関係、母親の成育歴や性格などを把握していきました。全体の状況や母親のニードが明確になると、虐待の程度や対応の緊急度が判断できます。その結果、電話相談では問題の解決は困難であり、早い時期に保健所の介入が適当であると方針を立てて、母親に保健婦さんの家庭訪問を受けるように勧めたのです。

この母親も援助を受け入れる気持ちを高めていくことに時間がかかりました。保健所に紹介するには住所や氏名を明らかにしてもらう必要があります。電話相談は匿名でできるという大きなメリットがありますが、機関介入が必要であると判断した場合には確實にその機関の援

助に結び付けることを考えますから、どうしても住所と氏名を聞き、紹介することの同意をとらねばなりません。

相談者が「自分の方からします」と電話を切つてしま

うと援助を求めるかどうか不確かになります。援助の手が届かないことを十分に想定しておかねばなりません。

電話相談は一回限りであるという限定条件のなかでの援助活動です。電話を通して一期一会の関係を大切にして、一人ひとりのニーズに最も適した援助に結び付けていかねばなりません。

この母親は保健婦の家庭訪問を受け入れ、保健婦さん

は父親にも会いました。母親の身体的虐待は少なくなっていましたが、下の子どもに手をとられ上の子どもは無視されることが多くなり、より情緒的に不安定になっていきました。保健婦さんは児童相談所の発達観察と母子の通所指導につなぎました。そして翌年の春には保育所に入れるように福祉事務所に依頼をしているというこ

このようにして母親からのホットラインへの相談がきっかけとなり、保健婦さんの活動を中心とした専門機関の援助システムのなかに包含されていったのです。

### 援助ネットワークの整備にむけて

大阪府では昨年、「被虐待児童の早期発見と援助のためのマニュアル」を発刊しました。それには関係者が児童虐待について共通した理解と認識を持つことを図り、関係機関の役割と機能を明らかにして、円滑に連携と協力がとれるよう詳しく説明されています。

「子どもの虐待ホットライン」はいま整えられつつある児童虐待の援助ネットワークのなかで、効果的に機能し関係機関の活動の一助となることを願い、早期発見と予防に貢献していきたいと考えています。

(児童虐待防止協会・元大阪市児童相談所)

\* 事例1・2は『少年補導』(第36巻3月号)「子どもの虐待ホット

ライン開設から一年」に山下ゆり子が発表した事例である。

# 附属幼稚園の教育 (6)

## 二学期の保育

### (夏休みの後で)

村石 京

長かった夏休みが終わって二学期が始まりました。子どもたちは、幼稚園が始まるのを今日か明日かと指折り数えて待っていたことと思います。

「さあ、今日から幼稚園」と張り切って元気よく登園して来ます。

保育者も夏休みという充電期間があつて、身心ともにリフレッシュ、少し気持ちにもゆとりが出来て、子どもたちとの再会を楽しみに心待ちしています。一学期の疲れやあせり、ストレスを洗いいます。

流せる夏休みは、保育者にとっては嬉しい期間といえるでしょう。

大部分の子どもたちは、この休み中に日焼けしたり、背が伸びたりして一まわり大きくなつたような感じがします。そして久しぶりに出会った友だちとも、数十日間のブランクを乗り越えて、すぐ遊び出します。

その様子は一学期と比べてみて、それぞれがより元気にたくましくなり、興味や関心も広がります。



て、休み中の家庭生活の中での成長が感じられる面もいろいろとあります。保育者は、新しい気持ちでこの子どもたちの様子をしっかりと受けとめ、その変化成長に合わせた対応をはかっていくようになります。

しかし中には、長い夏休み期間に友だち関係がとぎれりいたためとか、あるいは引っ越し思案の傾向のある子どもなどは、環境の変化に不安定になつたり、入園当初のような感じに逆戻りして自分が出せないでいたりする様子が見られるようになります。保育者はそうした子どもの様子をよく把握して、安心出来るような言葉かけをしたり、友だち遊びへの媒介役をとつたりして、気持ちがほぐれて、元気に遊び出せるようにきっかけをつくっていくことも必要です。級の中にいる子どもたちの一人ひとりがみな違った心を持つてゐるわけですから、その一人ひとりをよく受けとめ、理解し、その子どもに合わせた対応をし、そ

の子どもの必要としている援助を行っていくことが何より大切と考えます。

また二学期の始まりには、園生活の中でのきまりや生活習慣などに關しても、忘れたりくづれたりしている場合も見られたりします。保育者はこれらのことにも留意し、夫々の子どもがどの程度覚えているかを見直し、よく身につけていくことが出来るよう働きかけていくことも必要です。例えば四月入園の子どものいる三歳児、四歳児の級では、自分の持ち物の置き場所とか、手洗いやうがいのこととか、遊具玩具を使った後の片づけなど、一人ひとりに声をかけていくことも必要です。また遊んだ後でみなでする後片づけなどは、教師が率先して行動しながらも、子どもの気持ちがそのことへ向かうように、促したり、励ましたり、認めたりしていくことが大切です。

そして何より二学期の大きな特徴としては、一学期に比べると遊びがぐんと広がり、工夫が見ら

れるようになるということを上げることが出来ます。これはどの年齢においても言えることで、三歳児は三歳児なりに、四歳児は四歳児なりに、そして五歳児は五歳児として、遊びの深まりが出てきて、遊びの中で工夫したり考えたりするようになってしまいます。保育者としては、遊びの展がりや工夫に必要な素材を手近に用意したり、子どもの要求に合わせて、子どもの思いが実現出来るように援助したりしていきたいと思います。そして遊びがより楽しくなるような環境設定の工夫をしたり、この時期にふさわしい遊具や材料を準備したりすることも必要です。

そして子どもたちの遊びが長続き出来るように、教師も遊びのメンバーの一員として参加して、意見を言ったり、協力したりしながら遊びを構成し、盛り上げていくような工夫も必要です。そして更にある場合には、子どもたちが充分遊んでいる最中には、子どもたちの世界を教師が介入

することで崩したり、子どもが依存的になったりすることのないよう、中に入らずに見守つていくという配慮が必要な場合もあります。それはその状況に合わせた適切な行動をとることが、子どもたちと日頃深くかかわっている担任としての配慮といえると思います。

またこの学期は一学期と比べて、友だち関係がぐんと深くなつていく時期ということも大きな特徴と考えることが出来ます。仲のよい友だちが出来て、朝からその子と遊ぼうと思つて待つている様子が見られたり、年長児などは仲よしのグループが出来て、遊びが一だんと楽しく活気が出て来るのが見られます。保育者は、この友だち関係などについて、一人ひとりの様子をよく把握していくことが大切です。三歳児、四歳児でまだうまく友だち遊びの仲間に入れないでいる子どもや、気の合う友だちを見つけられないでいる子どもがいれば、友だち遊びの深まつていく時期にそのタイ

ミングをはずしてしまうことのないように、教師が遊びのきっかけをつくつたり、友だち同士への橋渡しの役をとつて誘いかけをしていくことも必要です。あるいは仲よしが出来ても、それが閉鎖的になつて他の子を排除したりする傾向が見られたりするような場合は、そのまま見過すことなく適切な指導をしていくことが大切です。それから年長児などはよくグループ遊びをしますが、そのグループの中での子ども同士の力関係とか、グループとグループの拮抗とか、深くかかわってみるといろいろと問題が見られることもあります。子ども一人ひとりの気持ちなどをよく知るために、やはり教師も遊びの中へ仲間入りして、その場その場に応じた適切な配慮やアドバイスをしていきたいものと考えます。

二学期の保育の中で大切なことは、遊びを深めることと、人間関係をよく育てていくことにある

のではないでしょうか。二学期は期間も長く、多彩な計画もあり、変化に富み充実した学期です。それら日々の中で、子どもたち一人ひとりが夫々に充分遊んだという満足感を持てるようになります。子どもたちが充分遊びこむことが出来るような多くの配慮、それは教育計画であつたり、環境設定であつたり、担任の教師の心づかいであつたり、いろいろあるわけですが、それらがみな子ども同士のかかわりを深め、遊びを一andanと楽しくしていくものであることが肝要です。そして遊びを通して、子どもの心の中に、相手に協力する気持ちや、相手を受け入れていく気持ち、思いやりの心、相手と共感する心などが生まれ、よい友だち関係が育つていくようになりますが、保育者として最も留意していかなければならぬことであると思ひます。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)

# テレビゲーム——情報化と想像力

山本 政人

## 『信長の野望』

ある夏のことだった。夏休みのひまつぶしにと思い、

ファミコンを買った。ゲームソフトは『信長の野望・全国版』と『三国志・中原の霸者』。これで夏休みは充実するはずだった。

その夏はゲーム以外のことはできなかつた。ひまつぶしどころか食事するひまもなく、朝から晩までではなく、朝から朝までゲームをしていた。やりすぎということもわかつても、途中でやめられないのである。僕の性格によるのか、それともゲームの魔力なのか、とに

かくとりつかれてしまつた。ゲームソフトは結構買つた。でも面白いと思うものは少なく、ジャンルがかぎらっていた。やはり『信長の野望』や『三国志』のようなシミュレーションゲームが面白かつた。その後、ファミコンでは物足りず、より面白く手ごたえのあるシミュレーションゲームをするためにパソコンを買った。パソコン用ゲームではシミュレーションが主役で、ファミコン用の『信長の野望』などももともとはパソコン用ゲームとして出されたものである。パソコンがあれば、より多くのいろいろなシミュレーションゲームをすることができる。パソコンはゲームだけではなく、ワープロや統

計処理にも使うが、僕の真の目的はゲームをすることだった。ゲームをする時、パソコンはただの機械ではなくゲームの対戦相手となる。「なかなかやるな」とか「バカなやつ」と思うことがある。ワープロなどを動かしている時とはちがい、ゲームをしている時のパソコンは「生き生き」としている。

### シミュレーションゲーム

シミュレーションゲームはその名の通り模擬ゲームである。たとえば『信長の野望』は戦国時代を舞台にした国とりゲームである。プレイヤーは戦国大名のひとりとなり、国づくりにはげみ軍備をととのえ、戦いに勝つことによって領土を増やし、最終的には全国を統一する。

『三国志』も同じだが、設定が中国の三国時代で登場するキャラクターがちがう。実際することは同じなのだが、時代や人物の設定がちがうことで別のゲームとして楽しめる。これはシミュレーションゲームにかぎったこ

とではなく。プレイヤーがそのゲームの世界にどっぷりとつかり、登場するキャラクターへの思い入れを強くすることによってゲームが面白くなるのである。したがって、プレイヤーはゲームの状況設定、時代とか登場人物についての知識をもつている必要がある。『大戦略』のように兵器の知識を必要とするものもある。最近は『シムシティ』や『シムアース』のような「環境」シミュレーションが出てきて、これらは特に知識を必要としない。しかし非常に複雑なもので、子どもには楽しめるものではない。シミュレーションゲームは大人向きのゲームである。

### 中学時代のこと

僕がシミュレーションゲームを好きなのには理由がある。中学生の頃、僕は勉強、特に数学は嫌いだったが、日本史だけは大好きだった。学校の勉強では物足りず、歴史小説や専門書を読みあさった。司馬遼太郎のファン

で全集をそろえていた。僕の日本史好きは読書だけではなく遊びにも及んだ。合戦をして日本全国を統一するゲームを作り、気の合う友だちと遊んだのである。ゲームといつたてもちろん紙にかいだ日本地図に城とか古戦場を加えて、その上でコマを動かす程度の単純なものである。ただ基本原理は今の『信長の野望』と変わらない。

戦争をして領土を増やすのである。合戦には野戦や城攻めなどいくつか種類があり、その勝敗はサイコロで決めようになっていた。片方が全滅したり退却したりして戦わざして勝ったり負けてしまったりすることもあり、結構スリリングな展開が楽しめた。特に面白かったのは、「島流し」というので、降伏した部隊が佐渡や八丈島に流されてしまう。しかしそれがサイコロの目によつて復活することができる。劣勢になっていても味方が突然増えて形成逆転することもあった。このゲームは何度かバージョンアップしたのだが、ルールが複雑になりつまらなくなつてやめてしまった。ゲームをすることはも

ちろんだが、ゲームを作ることが楽しかったようで、凝りすぎてしまつたのである。今日の僕のゲーム狂いにはこうした伏線がある。子どもがファミコンに熱中するのとは質がちがうと思っている。でも本当にちがうのかといわれると自信がない。遊びは遊びだし、面白いからしていることに変わりはない。

## オタク

僕がファミコンに熱中し始めた頃、連続幼女誘拐殺人事件が起きた。そして翌年の夏、容疑者が逮捕され、そのニュースが日本中を駆けめぐつた日も、僕は一日ゲームをしていた。それから「オタク」という言葉が聞かれたりと呼ばれるようになってしまった。オタクとはいつたいか。僕自身何か共通するものを持っているのだろうか。ゲームやビデオといった非現実の世界にはまり込んで現実との区別がつかなくなることがあるのだ

ろうか。もしそういうことがあるとすればどうしたらい  
いのだろうか、自分自身ゲームにはまり込みながら、そ  
んなことを考えている。ただ、現実と非現実の境目がわ  
かりにくくなっているのは別にオタクだけではないよう  
に思う。みんな「情報」という現実か非現実かはつきり  
わからないものに一喜一憂し、それどころかそれによつ  
て人生さえ左右されている。

### 湾岸戦争

湾岸戦争はテレビゲームのような戦争だった。少なく  
ともテレビを見ていただけの僕の目にはそう映った。実  
際、インタビューに答えた兵士もそういっていた。もち  
ろんそれは戦争というもののごく一面にすぎないはず  
だ。戦争の影響を直接受けない我々がメディア、特にテ  
レビを通して見たものは、まさに超リアルなテレビゲー  
ムでありSFXだった。認識のレベルでこれは本物だと

思っていても、映像として見るかぎりにおいてはゲーム

や映画と同じである。そういうことも認識しておく必要  
がある。テレビや写真などでは戦争の本当の姿を知るこ  
とはできないはずだ。湾岸戦争のさなか、戦争ゲームが  
売れていることが批判的に報道されていた。しかしゲー  
ムが悪いのではない。そういうゲームをしてみようとい  
う気持ちにさせたテレビなどのメディアの方が悪い。も  
とはといえば戦争が悪いのであって、ゲームと実際の戦  
争を混同してはいけない。戦争シミュレーションを軍が  
作戦、戦術の研究に使っていることはよく知られている。  
最近のシミュレーションゲームでは、各国の軍事力  
(兵員数、兵器、補給など)、地形、気象の変化までがか  
なりリアルにシミュレートされているという。だから今  
回の戦争はゲームでしていたことが現実に起きてしまつ  
たわけで、その意味からもゲームのような戦争だったの  
である。

### ゲームと流行

シミュレーションゲームが流行を先どりしているよう

なところがある。最近の三国志ゲームはおそらくゲーム  
から火がついたのだと思う。『信長の野望』シリーズは

シミュレーションゲームの王様だが、その「信長」がド

ラマになるらしい。またゲームが売れる。『独眼竜政  
宗』や『武田信玄』はドラマの後にゲームが出た。『銀  
河英雄伝説』も原作が売れるようになってからゲームに  
もアニメにもなった。最近はゲームが先に出て、後から

その原作やシナリオ、あるいはアニメなどが出てくるよ  
うになつた。僕もゲームをした後に『三国志演義』を読  
んだ。そしてゲームよりも物語の方がずっと面白いと  
思った。『信長』も同じでゲームよりもその時代の歴史  
が面白い。ゲームはその歴史を自分で作り、想像をたく  
ましくすることができるから面白いのである。たとえ  
ば、僕のひいきの戦国武将、長宗我部元親（司馬遼太郎

の小説を読んで好きになつた）、宇喜多秀家（僕の郷土  
の武将だから）、石田三成（どこか自分に似ているよう  
に思うから）などが天下を統一するのを想像しながら、

実際ゲームでそれをやってみるのである。

### ある男の子のこと

テレビゲームのことを考え始めた時、僕は面白い子ども  
も出会つた。彼（男の子）は保育園の四歳児だつた。  
彼は友だちと遊ばず、いつもひとりで楽しそうに遊んで



いた。遊びといつても紙をくるくる巻いて棒のようにしてもつてゐるだけなのである。彼はちえおくれとか自閉症とかいうような子どもではない。家ではいい子だし、保育園で困ることもない。もつとも、集団には入らずひとりでいるから、他人が困ることがあるはずがない。僕が気になり、また面白いと思ったのは、彼がよくひとりで歌を口ずさんでいたことである。それはどうやらファミコンの『スーパーマリオ』の音楽のようだつた。それを作つてゐる時、彼は周囲からは隔絶し、視線は虚空をさまよつてゐる。そしてなんとなく氣味の悪い笑いをうかべてゐる。聞いたところでは、家で小学生のお兄ちゃんがファミコンをしていて、彼もまねごとのようにし始めたそうだ。満足に操作できるわけでもないのに毎日二時間ぐらい（実際にはもっと長時間ではないかと思う）いじつてゐるという。歌を口ずさんでいる時、彼は保育園の現実から遊離し、異次元の世界にはまり込んでいるかのようだつた。最初、彼を現実に連れ戻すことはそれほど困難ではなかつたが、だんだんむずかしくなつた。

（実際にはもっと長時間ではないかと思う）  
いじつてゐるという。歌を口ずさんでいる時、彼は保育園の現実から遊離し、異次元の世界にはまり込んでいるかのようだつた。最初、彼を現実に連れ戻すことはそれほど困難ではなかつたが、だんだんむずかしくなつた。

ある時、保母が話をしているのに彼は例の歌をやつていた。保母が気がついて声をかけたが反応がない。そこで考えた保母が「〇〇ちゃん、スイッチ切るよ、切るよ、はい切つた」とやってみたら、彼はハッと我にかえつたそうである。まるでファミコンと同化してしまつたかのようであった。ところがしばらくして彼は変わつてしまつた。依然ひとり遊びなのだが、保母とかかわることが増えてきた。そして歌が減つた。どうしてなのかわからない。ファミコンをしなくなつたわけではない。また、鬼ごっこなどしていても他の子とは無関係にひとりだけ楽しそうに走り回つてゐるから、相変わらず少し変わつてゐるのである。それでも変わってきたからよかつたと思つた。

### 現実と非現実

大人はファミコンが子どもに何らかの影響を与えていふと考えるだろう。そして「オタク」という言葉を思い

浮かべる。現実と非現実の区別がつかなくなってしまったからどうしようとも心配するかもしれない。けれども子どもに現実と非現実が何ら区別なくとらえられていたとしても、それはおかしなことではない。別にテレビゲームでなくても、子どもを非現実の世界で楽しませるものはたくさんあるし、子どもはそれで遊んでいいのである。問題なのは大人の方だ。現実と非現実が区別できなくなってしまったらそれこそ病気だ。だが、「情報化」は現実と非現実の区別をあいまいにしている。「情報なしでは生きていけない」というが、このように思い込みをもつてしまつたこと自体、非現実の世界にはまり込んでいる証拠だ。情報というものの危うさは、本当とうそ、現実と非現実の見分けがつきにくいところにあるのではないかと思う。「裸の王様」のように、みんながいうことが本当にになってしまったのである。大人は本物と偽物を区別したいという欲求は強い。しかし悲しいかな、それを見わかる目、あるいはそれを見きわめようとする意志をもたないまま大人になり、だまされて泣いた

り怒ったりしていることも多い。だまされたことのなさそうな人もいるが、その人たちが本当とうそを見わける目をもっているわけではなく、だまされているのに気がつかないだけなのかもしれない。

僕も本当とうその見わけがつかない大人のひとりである。いや代表であるというべきかもしれない。これまで自分が学んできたこと、そして現在人に伝えていること、それはうそではなかつたにしても、現実とは離れたものであるという気がしてならない。現実から離れて成立する学問もあるが、僕のやっているような分野では、それではまずいだろう。それは現実にじかに接するのではなく、いつも現実と離れたところから見ていたためである。実体験から学ぶことがなかつたといふこともできる。情報から学ぶだけなのだ。そしてそれを少しづつデフォルメして人に伝えていく。それが僕たちの仕事なのだが、現実から学ぶことは必要だ。

## 情報化と想像力

話がテレビゲームのことからかなり飛躍してしまったが、テレビゲームのことは現代の情報化の問題の一端な

のだと思う。子どもの時はテレビゲーム。これからは学校へ行けばコンピュータ、会社へ行つてもそうだ。仕事も遊びもコンピュータということになる。コンピュータを使うと認知スタイルが変わる。すべて符号化されてしまう。コンピュータの発するメッセージも、コンピュータを動かすのも符号である。それは合理的だが、感情のようなものがない。人間らしさがないのである。人間は言葉に感動することはできるが、符号には感動しない。それではつまらない。だからゲームをしていてもストーリーにしたりする。「裏ワザ」探し、「バグ」探しはコンピュータが正常に動作しないのを喜んでいるものだが、それも何かしら人間的なものを求めているようである。

人間のたくましい想像力がゲームを面白くしているといえるのだが、想像力ばかりが肥大することになる。実

体験から学ぶことなく、無味乾燥な情報から想像だけはふくらんでいく。空にあるものはみなUFOに見え、高層ビルの林立する都会は巨大なミステリーゾーンに変貌する。

最先端の科学技術とえたいの知れない神秘的なものの共存、ハイテクと妖怪の対決。最近の若者向けの小説やアニメによく見られるテーマである。その中では科学は常に敗者であり、最後に勝つのは超能力や愛などといった人間の根源的な力なのである。人間はテクノロジーだけでは生きていけないとことらしい。しかし現実には、人間がもつていた根源的な力は次第におとろえ、想像力だけが強くなつていくようだ。そのアンバランスが「オタク」なのだろうか。いびつだが、それは情報化への適応なのかもしれない。想像力が不毛の想像に終わるのではなく、「創造力」につながつていればいいのだ

(お茶の水女子大学)

J・A・コメンスキー

## T・G・マサリクの講演から(2)

大棍 優子



「コメンスキーは、歴史を人類のための学校と考え、その発展の段階を注意深く分析しています。主には、チエコにおけるキリスト教についてですが、民族の没落についても非常にていねいに分析し、考察しました。その功績は驚くべきものです。文化史上、当時のチエコ、ポーランド、ハンガリーの状態を知る資料で、コメンスキーにまさるものはないといわれるほどです。歴史家は、コメンスキーから非常に多くのものを得ているといえます。チエコ民族は、よりよいものを希求して没落した、

ボーランドもまた、中庸な立場に戻らなければ、長くからず解体するだらうというコメンスキーの分析、予見は、当を得ています。フランス革命を予見したことでの、ライプニッツが評価されているように、コメンスキーは、ボーランド解体の予告で評価されるべきでしょう。コメンスキーは、また、『幸福な民族』という作品をハンガリー民族に獻げていますが、彼の見解は、今日においても高く評価されています。彼は、当時のハンガリー王国の弱点を詳細に研究しました。そして、民族の

幸福は、道徳的な基盤の上に生まれると述べました。その時、勿論ハンガリー民族の上に自分の民族を重ねて考えていました。コメンスキーは、道徳を上から与えられる徳目としては考えず、様々な社会活動として具体的に示しました。民族が誠実であるように、そのためには、自分で自分を解き放つように、団結して血統性を守るようにしていくことが大切であること、また、民族は、自分達に根付いた自分達の政府をもつように、血縁関係にある人々との結び付きを強めるようにとも願いました。民族の幸福とは、あらゆる人々の自由、家庭の安泰、目標において一致した考へのもとに、どの人も障害なく自分の仕事に専念できることを意味すると考えました。

これらの考への上に、コメンスキーは、自分なりの教授法、教育学をうちたてました。ここでは簡単に、その主な原則だけをとりあげましょう。コメンスキーが、客観的な事物界に汎知的な方法を確立するよう努力したことを見出してください。全ての教育は、汎知法を最後まで使いこなすことに他ならないと考えました。人間精

神は、汎知の方法で学習していきます。教育者に期待されることは、客観的事物界をより広く、より深い世界へと導き、だんだんに精神活動の内的な世界へと進めていくことです。私達現代人は、自己について考へるところから出発しようとして、その意味では主観的ですが、コメンスキーは客観的事物界を優先させました。コメンスキーは、事実主義者であったともいえます。それ故に、スコラ学派と対立する立場をとりました。言葉よりも事物、言葉よりも事物についての考へを重視しました。教育の世界で、自然界の事物、事象を見よう、自然を知ろうとする考へは、それ以前にはなかつたことです。後になって、ルソーがそのテーマをとりあげています。コメンスキーのすべての学術研究、教育学研究は、この自然な生き方、考え方につどり着きます。そこに、コメンスキーの教育的現実主義、事実主義が成立しています。言葉ではなく事実が学校で与えられ、自然科学的な、数学的な知力が学校で育成されることを目指していますし、これが、後に一般教養、産業、工科のそれぞれ

の学校が独立して成立する方向を示唆しています。スコラ学派に対し、かなり明確な意図をもって、耳による記憶ではなく、目による視覚教育を要求しています。『世界絵図』は、この教育理念を基礎にして、自然界の事物を収集した最初の教材です。事物とその意味は言葉に先立ち、事物を伴う言葉が最初に与えられるべきだという考えが反映されています。

まさに正しい教育が、人を本当の人間にします。それ故、人はその人生の最初から教育されるべきです。人の一生が、自分で学習する過程であり、人から教育される過程です。人は、子宮の中에서도教育されるべきです。幼児から老人へ向かう、その幼児の時から、その人の一生は、教育の段階を経ていく人生以外の何ものでもないといつても大げさではありません。保育と教育は、なにか特別のもので区別できるというものではありません。人は、自分の中に新しいものを付けたことはできません。ただ教育によって、私達の各々に用意されています。自然体を成熟させ、開花させ得るだけです。保育と教

育は、事物界の秩序と、人間内に未発達な状態で置かれている能力に目を向けていきます。教師は、生徒の関心が世界の秩序とどの人にもある自分の能力に向かうよう教え導くべきです。コメンスキーの考え方を一言でいえば、自学自習です。ですから、コメンスキーに依れば、教師は自らひたすら学び続けなければなりません。また、学校や人生はだれもがだれからでも学べる『学びの場』です。つまり、これは、学校のより水準の高い生徒は、教師の役を得るという彼の試みと関連しています。汎知能の概念の発展段階をかけて充実させるわけです。

教育は、一般性から特殊性へと進むべきだとコメンスキーは考えています。勉学のより高い段階では、特別新しいものは何も与えられません。より低い段階で大まかに与えられたものをもっと明確に詳しくするだけです。たとえば、画家が最初に顔全体の輪郭を描き、それから部分を詳しくていねいにしていくようなものです。同様に、教師や保育者もはじめは全体をおおまかに与え、子どもがそれを自分のものにしてから、順次詳しく明確に

していくというステップで進めます。

学校は生徒から離れた場となつてはなりません。学校

は、国の、あるいは社会組織の基礎となるものです。学校は、いわば国です。町村の学校においても同じことがいえます。児童のためには幼稚園が、学童には基礎学校（小中学校）、青年には都市のギムナジウム（高校）、最後にはアカデミー（大学）が必要です。大学は、県や国の管轄です。このように学校組織は、国の政治区分と対応します。学校は政府が世話をするようになるとコメンスキーは述べています。教会ばかりだけでなく、國も学校教育に目を向けるべきといふのです。ここにも、コメンスキーのモダーンな考えがみられます。六歳までの子どもは幼稚園で、六歳から十二歳までの子どもは町村立の学校で、男女一緒に、家庭の状態や各人の才能にかかわりなく教育がうけられ、さらに十二歳から十八歳まではラテン語学校、十八歳から二十四歳まではアカデミーで勉学できるような構想です。また、学校教育を充実させるために、コメンスキーは旅行を勧めています。これも

大切な教育の一つと考えているのです。これに加えて、

体育のことも忘れていません。

もしもコメンスキーの学校教育についての考え方を一つの文でまとめるとすれば、こう言えます。すべての人々は、それぞれ一つの方法で学ぶべきです。そこには、理論では汎知学、実践では汎教育が織り込まれています。

ですからコメンスキーは、言うなれば、人民全体の教育を考え、保育・教育を民主化したのです。当時、教育をうけたのは貴族の子弟だけであり、一般庶民の子弟は例外的であったという事実は忘れられません。女の子の教育も、基礎から高等教育までを要望しています。あらゆる人々が、同じ方法で学習し、科学を進め広げる近代人となるよう願っています。彼自身、八歳の男の子に形而上学の真実在の諸規定を教える試みをしました。その基礎にあるのは、母国語による学習です。世界共通語としてのラテン語は、より高い段階でのみ学習されるべきとされています。

これらが、コメンスキーの哲学の主な理念といえま

す。さらに、私は簡単にコメンスキーの歴史的な意義について、コメンスキー自身がどのように自らを啓発していったかをお話したいと思います。

彼の哲学の中で、主に、何よりも優先させて目が向かれているのは、チエコ同胞団の意見です。当時は、民族改革に入れていました。その他に彼の哲学を発展させた思想家達がいます。最も敬意を表して自ら名を挙げているのは、アンドレアエ、さらにアルシュタット、ラトウケです、ルターやメランフトンの足跡にも関心を向けています。新しい時代の哲学からも影響をうけました。ベーコンから多くを学び受け入れました。自由な思想家達をも恐れることはありませんでした。

同じように簡単にコメンスキーが歴史にどう貢献したかについてふれておきます。最初から彼の影響は大きいものでした。最初は狭い範囲でしたが、国から国へと追われる度に、その影響を及ぼす範囲が広がり、特に当時教育水準の高い世界全体にまでになりました。ライプニツツは、コメンスキーを非常に高く評価しました。その

ことは、私が充分に保証できます。後になつてコメンスキーがすっかり忘れ去られ、前世紀（十八世紀）になつてようやく彼の考えを見つけだしました。ようやく私達の時代になつて、特にチエコ民族のところで教育省が先に立つて彼の考え方を広める努力をし、コメンスキーの影響力が強まつてきました。コメンスキーの思想の中に、多くの近代的な学校教育に関する提言を見い出します。

一つのことだけを紹介しましょう。フレーベルの幼稚園が、彼の独自の発想か、それともコメンスキーの発想によるものかは論点になるところです。フレーベルの伝記作家ライネッケは、独自の発想としています。然し、私達にはそれに対抗する証人がいます。以前このカレル大学の教授であつたレオンハーディの著書に、幼児の保育についてコメンスキーが力をいれている旨、フレーベルに知らせたとあるからです。」

（プラハ在住）

※ 一八九二年三月二十八日、コメンスキー生誕記念日、カレル大学において、学生達に向けての講演より

# ひとりとひとり

## ～一卵性双生児子育て記～

0歳～3歳

須藤 麻江

まさか、自分が双子の親になるとは、思いませんでした。我が子が生まれるとわかった時、私の望みは「かぐや姫のようなしつとりした女の子、ひとり」でした。ところが、あと一ヶ月で生まれるという時になつて、双子ということが判明。それからのはやかつたこと。あつといふ間に時は過ぎ、気づいたら「かぐや姫」どころか、「白のような金太郎ふたり」の母になつていたというわけです。

訓平、二〇二一〇グラム、竜平、二五〇〇グラム。ふたりとも、生まれたときの状態が良くなかったのですぐ、日赤病院の未熟児センターに入院しました。竜平は、三週間の入院。訓平は、一度、一ヶ月後に退院しましたが、「腸回転異常」ということで再入院。延べ、約七十五日間病院で過ごしました。

寝返り、お座り、支え立ち、はいはい、ひとり歩きなどは、ほとんど、同程度に発達していきましたが、訓平

が竜平の体重においていくつぐに、やはり一年かかりました。

ふたりは、一卵性双生児です。一卵性双生児は、本来、一人の人間になるはずの受精卵が、発生のごく初期に分離して、二人の人間になつたため、ふたりのもつている遺伝子はまったく同じと考えられているそうです。お腹の中にいる時も一緒、生まれてからも一緒。遺伝子も同じ、環境も同じなら、性格もさぞよく似ているにちがいないと考えがちです。実際、私も、双子を育てる前はそう思つていました。ところが、やはり双子はひとりひとり。それぞれに個性があり、こちらもいろいろ楽しませてもらいました。また、カンカン、キンキン、よく怒らせてもらいました。

では、育児日記を頼りに、双子の成長をたどつていきたいとおもいます。

### いつも いつしょ

三ヶ月に入った頃から、竜平が訓平に、にこにこ笑いかけています。わかつて笑いかけているのかな。あやすとけられら笑ってくれるから、わかつて笑いかけているのかもしれないね。訓平とふたり、自分の手をじっと見ているの。……略……訓平くんの手が目の前にくると、それをじっとみているけれど、その手は訓平くんの手ですよ、竜平。

(三・五ヶ月)

ふたりは、分厚いマットに、三十センチほど離れて寝ていました。当然、手や足がふれたり、笑い声や、泣き声もきこえ、もう一人が動くと、その振動も伝わります。二人は、風の音や鳥の声の自然音、いつでもどこからでもきこえてくる生活音の如く、おたがいの存在を感じていたように思います。

訓平、今、ハッポウスチロールの箱の中でお座り。だん

七か月ごろ ハッポウスチロールの中にいたころ  
ガラガラをもっているのが竜平、もっていないのが訓平



だん、ご機嫌ななめ。よだれかけのりんごのアップリケを  
竜平につかまれたり、私が訓平にあげた新聞紙をいつのま  
にか竜平がもつてしたり……。

(七か月)

※

最近、二人の間に、積極的なコミュニケーションがみえ  
てきましたよ。主に竜平から笑いかける。そして、また、  
けられると訓平が笑う。そんなに長い間ではないけど、笑  
いあつている姿がよくみられます。

たまたま、手や足がふれて、けられら笑うこともありま  
す。

(七か月)

お座りができるようになると、私は、二人を魚をいれ  
る大きなハッポウスチロールの箱に向かい合わせですわ  
らせておきました。向かい合うと、いやでも相手の顔が  
目の前にくるわけで、竜平にとつて訓平は、格好のおも  
ちゃのようでした。よだけかけは、ひっぱる。ものはと  
る。訓平は、なにがなんだかわからないようで、きょと

んとして、されるがまま、という感じでした。

このような竜平の行為は、訓平にとつては不快そのものです。竜平にとつても、私に手やおしりをたたかれれば不快でしょう。しかし、お互、不快の素だけをぶりまいていたわけではありません。箱の中で、偶然足と足があふれて、くすぐつたいような楽しい興奮を味わうことができたのも、お互いがいてこそできしたことなのですか

竜平、一人で、いないいないばあが、ずいぶん上手にで  
きるようになつたわね。きょうは、おむつをつかつてやつ  
ていたね。それをみて訓平がけらけら笑つっていたよ。竜平  
が、いないないばあー。訓平が、けらけら、きやつ、  
きやつ。

(9か月)

双子でいいなあとと思うことのひとつに、この「いない  
いないばあ」があります。大人が相手をすると、必ず、  
食事の準備、来客、電話など、雑多な用事で「はい、ま  
らどう?」と言つたことをしつかりきいていた様子。もち

た今度ね」という具合になりがちです。しかし、ふたり  
の「いないいないばあ」は、際限なく続きます。好きな  
こと、気持ちの良いことを、同じように興味ある子とや  
ることからおわるわけがありません。二人には、不快  
な事も次々起りますが、快適なことも徹底的に行われ  
ます。

ここら辺が、異年齢の兄弟と、同年齢の兄弟のちがい  
かもしません。

### でいぱる竜平、ひっこむ訓平

知らない子が、竜平の車に乗りたがつたときのこと。訓  
平はさつと自分の車をその子にわたして、ぱつと家の方に  
走つていき、三輪車に乗つてやつてきました。すると、今  
度は、竜平も三輪車に乗りたくなつて、「ぼくの!」といつ  
て、訓平から三輪車をとろうとしました。まったく勝手。  
訓平は私が、竜平に「車をかしてあげて、三輪車に乗つた  
らどう?」と言つたことをしつかりきいていた様子。もち

るん、私は訓平の味方。

※

(二歳五ヶ月)

▲ 二歳のころ

ところどころとしているのが竜平、  
とられるのが訓平

竜平、どうして訓平が積み木で遊んでいるのに、急に横取りしたり投げたりするの。訓平が、レゴを汽車にして、上手にお人形をのせて動かしていると、それを投げたり、訓平が粘土をつかって自動車を作っているとそれをまた投げたり……。

(二歳九ヶ月)

ハッポウスチロールのなかでのふたりの力関係は、その後も続きました。竜平が、先にちょっとかいを出す。自分の欲求を、常に最優先してそれをはばむものは許さない。その暴君ぶりの一番の被害者は訓平です。竜平は、叱られる回数も、俄然多いのですが、気分転換の早いこと、早いこと。泣いて私に抱きついてきたと思ったら、もうすっかり元気になつて、悪行を続けるという具合でした。訓平は、叱られると、平気な顔をしてひとりでぶつぶつおはなしをして、かたくなになります。泣くとき



はこれがまたすごい。火がついたように激しく泣き、好きなおもちゃを渡しても、竜平はすぐにこまかされるのに、訓平はいつさい拒否。ぽいぽいとそれは見事な投げっふりです。竜平にものをとられる、こわされる……。いっぱいいたまつた欲求不満をうわっと吐きだしている、そんな感じでした。私も主人もなるべく、訓平から先に声をかけたり、抱いたりするよう心がけました。

## 外へ出る

初めて、双子用の乳母車に乗った感想は？ 竜平がえんえん泣くから、まわりに人垣ができちゃったね。訓平はおさまとして、ぜんぜん平気。竜平を抱っこしたら、胸に顔をこすりつけては横目でまわりをちらり。訓平は、知らないおばさんににこにこして抱かされていたね。

(六か月)

※



ていくと、四歳ぐらいの女の子が、砂場で遊んでいました。訓平は、たつたつたと砂場めざして歩いていくと、女の子が作っているケーキの上を通って見事にこわしてし

家のすぐ前に小さな公園があります。そこに二人を連れ

まいました。私はひたすら女の子にあやまって、訓平を叱りましたが、ふと見ると竜平がいません。公園からでてしまつたのではないかと一瞬背中がひやりとしました。

しかし、大丈夫。いました。竜平は、ペたりと地面にす

わって、大きな石の上に小さな石をたくさん並べて遊んでいました。かなり熱中している様子です。すると、さつきの女の子が私のところにやってきて、「あの子（訓平）がスカートに砂をかけたあ」と訴えてきました。訓平はとうと、何事もなかつたかのように砂場にすわり込み、コップに砂を入れて遊んでいました。

（二歳四か月）

読んでもらつてたの。「またおいで」って、おじさんにいわれたね。おしつこでパンツをびっしょりにしたから、ようちやんのをかしてもらつたね。

（二歳十一か月）

外にでるようになると、やはり、双子は目立つらしく、見知らぬ方まで「よく似てるわね」「どっちがお兄さん？」などと、積極的に話しかけて下さいました。日夜、ふたりにありまわされている私にとって、そういう会話は、いい気分転換になりました。また、面白いのは、家では暴君ぶりを発揮している竜平が、人がくると、泣いて抱つことせがみ、私から離れないのに対し、

訓平は、平気で知らない方に抱かされたり、あやされてけられら笑つたりと、とてものびのびしていたことです。トラブルメーカーぶりを発揮したのもます、訓平。

竜平が訓平の後ろからちょろちょろくつづいて歩く姿は、なかなか面白いものがありました。俗にいう、内べんけい、外べんけい。それぞれ、でっぱり所、へっこみ所があつて、心のバランスがとれていたのかもしれませ迎えにいったら、ようちやんのおじさんに、電車のご本を

ん。しかし、結局、家の中同様、手がかかるのは、私  
後をおつて泣く竜平でした。

### 遊ぶ

ふたりでなにやらくちやくちやおはなし。目をみつめ  
あって、笑つたりにらんだり。首をかしげたり。まるで鏡  
をみているみたいだね。訓平が、私そっくりの口調で  
「めつ」とか「ぢや」ちや、竜平におこる。竜平は、「えー  
ん」と泣いてばたつとたおれる。そして顔を見合わせて、  
ふたりでえへへへへ。

(一歳十か月)

※

竜平は、ミニカーをずらーっと全部並べるのが得意。訓  
平は、竜平の三分の一ぐらいかな。じっくり選択してから  
自分の好きなミニカーだけ並べる。

(一歳九か月)

▶ 一歳のころ（外にいるところ）

けっているのが訓平、けられているのが竜平



〈ほんちゃんごっこ〉

……略……

訓 「ようちゃん、いつてる？」

竜 「いいな、いいな、ほく、いつてない」

訓 「お子さまランチたべるの」（園で）

竜 「しょうぼうしゃでいくんだろう。（消防車を動かしながら）

(ら) うーうーうー

訓 「おまえもおこさまランチたべにいくか？おまえも、ようちえんにいれてやろうか？」

竜 「いいよ、いいよ」（入るという意味）

……略……

(三歳四か月)

ふたりは、いつも一緒です。一人が泣いていたり、叱られたりしている時も、何か楽しい遊びを発見した時も、いたずらしようとしている時も、いつも一緒です。

ちょうど、まだ、乳児のころ、三十センチ程お隣りにて、相手の存在を振動で感じていた時のように、一緒にどきどきしたり、わくわくしたり、いろいろしたり。

私が特に面白いと思ったのは、「ふたりしか入れないほんちゃんごっこ」です。これはほんちゃんといいうまの小さなお人形を、ふたりが交互にストーリーを言いあいながら動かしていく人形遊びです。この遊びが始まると、二人はひとつのかプセルの中に入ると入ってしまったように仲良く、楽しそうに遊びます。いつになつたら終わるかと思うくらい長く続きます。あの「おわりなきいいいないばあ」のように。そんなふたりを見ていると、双子つていいなあと思います。

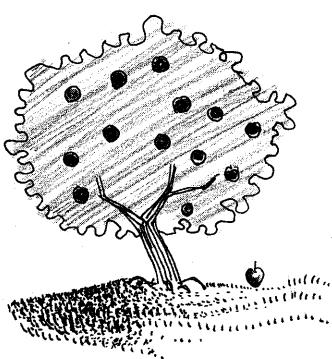
由ののような金太郎ふたりは、なにせ、とつたとられた、かんだかまれた、の経験が豊富なため、幼児の社交

会ではトラブルメーカーぶりを發揮しました。幼稚園での双子の様子は、また次回で報告させていただきます。

(作家・ツインマザーズ所属)

# 思　い　出　の　中　の　保　育　(4)

守　永　英　子



三十余年の保育生活には、さまざまな思い出がある。ひとりひとりの子どもの、小さな活動の一こま、一こまが、目に浮かぶこともあれば、数人から十人以上の大きなグループでの盛りあがった活動が思い出されることもある。

室の前の廊下に列をつくって並んだ、小さい組の人達の姿である。

いつ、どのようにして、おばけ屋敷の相談が、まとまっていったのか、残念ながら捉えていない。ただ、おばけ屋敷をするために、他の組の先生に、遊戯室のカーテンを引いて、暗くしてもらつたという報告を受けた。年長組のときのことである。

廊下に待つ小さい組の人達を、数人ずつ誘導して中に入れ、少し経つと、外で待つていのは、おばけ屋敷に入れてもらおうと、遊戯

誘われて、私も順番を待つて中に入れてもらった。大きなBブロックで作った長い車に、数人のお客様を乗せて、暗い遊戯室の中を一周する間に、二、三か所から、おばけがでてくるのである。子どもたちが、両手でおばけのようすをしながら出てくるところもあり、棒につけた糸の先に、紙で作ったおばけを吊るして、突き出すところもあり、後ろから静かに現れて、肩をポンポンと叩くのもありで、一周する。

これだけのことであつたが、遊戯室の前には、翌日も、朝から小さい人達の列ができ、子どもの世界のおもしろさを感じたことであつた。

この活動の推進力の一人だったと思われるK男の、三歳児クラスのときの姿も、印象深く残っている。日ざしが少し強くなり始めた六月初め頃であつたろうか。K男は、水を

張った園庭の池の前にしゃがみこみ、自分の靴を片方ぬいで水に浮かべて、それを眺めていた。子どもの小さな試みを、そつと大事に、見ていることは、保育者として心楽しい。

年長組の三学期になると、子どもたちは、卒業を惜しむかのように、活発に活動する。グループも大きくなり、遊戯室の大積木なども、沢山使って、大きなものを作るようにになる。他の組との共有の遊び場であり、共有の遊具であるから、「使いたい」「貸してくれない」のトラブルがよくおこる。担任としても、仲よく分け合つて使ってほしい、と思う一方で、大きなものを作りたいという気持ちを、満たしてやりたいとも思う。

年長組の三学期にはいつて間もなく、保育室では、卒業アルバムにはる絵や、はり絵

や、名札づくりに忙くなりはじめる頃、男の子たちのグループが、遊戯室の大積木に熱中はじめた。高くするため、長方形の積木を立てて板を渡すやり方は、大人をはらはらさせる。遊戯室に近いクラスの先生が、時々見ては、危険のないように注意してくれたし、私も、時々遊戯室に足を運んでは、積み方に危険がないか見たり、子どもたちにも、気をつけるように注意を促した。だんだん高く積み上げるようすに、「止めた方がいいのではないか」と他の組の先生から、注意を受けたが、あまりの熱中ぶりに、そこでとめてしまふことが、ためらわれた。折よく、観察記録をとりにきていた先生の話では、彼らは大変に、注意を払いながら積んでいるということで、私も、不安に耐えながら、もう少し、辛抱することにした。

翌日も、朝早く登園した子どもたちは、遊戯室にとんでいった。たいした熱中ぶりであった。

でき上がった大積木の構築物は、私を驚かせるのに充分であった。四層に積まれた積木の屋根は、天井近くまでそびえていたし、三層目には、とび箱が置かれていた。これだけの高さまで、どうやって積んだのであろうか。この重いとび箱や積木を、どうやって、この高さまで持ち上げたのであろうか。大変な努力と集中力である。

いずれ片づけられ、姿を消してしまったこの力作の前で、私は、写真を撮つてあげることで、彼等の努力を称えることにした。推進力になつた子どもは、余程うれしかつたらしく、「先生が写真を撮つてくれた」と家で報告したという。

私をはらはらさせたこの危険な作業は、子どもたちにとっても、緊張と努力を必要とす



るらしく、ありがたいことに短期間で終わった。

入園当初、心細げに泣いていたり、引っ込み思案だったりしたこの子どもたちは、二・

三年の間に、何を糧に、このたくましさを養ったのであろうか。子どもたちだけで創り出していく活動のおもしろさ、すばらしさに、畏敬の念をおぼえたのであった。

(元お茶の水女子大学附属幼稚園)



▲ 遊戯室の大積木

# 保育者養成の今日的課題 (5)

～少子化傾向を中心として～

## 心理劇の活用 その 2

前田 あけみ

### 五、実習後指導としての心理劇

現在、筆者が保育者養成法として活用している心理劇には、主に次のようなものがある。

A—保育の課題場面の解決法を見出すためのもので、実際の保育状況を再現する心理劇

B—保育者としての資質を高めるための心理劇で監督が設定するワークショップ（対人関係的感受性や対人関係的技術、保育技術を監督の設定した活動の中で習得する心理劇、ごっこ遊びの楽しさを知り、ごっこ遊びの演出力を獲得するためのファンタジーの心理劇）などである。

本稿では、Aの特に実習後指導としての実践例を通して、心理劇の活用法とその効果、特に「保育者自身の対人関係的感受性を高め、対人関係的技術を培う」ことにについて述べる。

実習は、子どもを前にして、一過性のやり直しのきかない体験であり、その体験から学生は、様々な課題を持

ち帰る。その多くは、「あの保育状況で、どのように振る舞うことが、状況の発展をもたらし、子どもの発達援助となりえたのか」と言うものである。この具体的な状況における具体的な行為に関する洞察を深めるために筆者は、実習後指導として心理劇の活用を試みている。

平成二年度の指導対象となつたのは、主として富山大

学教育学部幼稚園教員養成課程三年生三四名である。実

習園別に三グループに分かれ、それぞれ二時間半の心理劇ワークショップを行つた。本稿では、〇幼稚園のワークショップを取り上げる。参加者 学年九名、(〇幼稚園の実習生六名、他四年生三名／内記録一名) 監督・筆者、場所（舞台）：幼稚園課程演習室三六m<sup>2</sup>

およそその過程は、次のようなものである。

I、ウォーミング・アップ 技法「九〇年私の成長」

「九一年私の成長」

II、アクション a、保育課題の出し合い・主演者の選

出 b、主演者Fの課題の究明 c、主演者Nの課題

の究明

### III、終結 a、感想を述べる b、監督によるまとめ

#### c、感想を書く

ここでは、IIの主演者Nの課題の究明過程およびNの変容過程を中心に述べる。再現された劇は、五歳児クラスの保育状況で、この段階のワークショップは、約四十五分間。

#### △Nの課題内容▽

場面 i 少し離れた場所で、カズが泣いている。傍らで、クロダが立つて見ている。カズに近づき、「どうしたの？」と尋ねると「クロダ君がぶつた」と言う。クロダに「クロダ君ぶつたの？」と尋ねるが、一言も言わない。

場面 ii 集まりの時間に一日のことを話し合つてゐる時に「カズ君をクロダ君が泣かしました」という発言があつたので、実習生N（主演者）が、「ちょっとクロダ君立つて。みんなこう言つてゐるけど、どうしたの？」と尋ねると、大粒の涙を出して無言のまま。「もう、やらないって約束できる？」と尋ねても、領

きもしない。「じゃ座って」と言つてその場は、終える。

このよう場面で、自分としてはどのようにふるまつたらよかつたのか、今でもわからないというのが、主演者（プロタゴニスト）の出した課題内容であった。まず、初めは、このような課題状況が、言葉で語られる。次に、心理劇では、このような課題状況を劇場面にしたてていく。この劇（行為）化は、主演者の内的世界の具象化であり、内的世界が、今ここで外界に空間的・行為的に現わされることによって、課題状況に内在してしまつている自己に対して、ある種の距離化をはることになる。またそれは、監督や参加者にとっては、状況やその構成要素を全体的に、つまり、言葉と行為において、時間と空間において把握することを可能にする。そして、その課題（葛藤）を主演者とともに、今ここで新しく、通時に共時的に取り扱うことを可能とするものである。保育者養成においては、学生の課題としている状況（実習先での出来事）には、直接かかわっていない教官

（筆者）が今ここで再現される状況において、学生の指導（課題解決へむけての援助）が可能となる。

まず、その場面に出てくる登場人物が明らかにされ、役割付与される。（役割付与されたメンバーを心理劇では、主演者の課題と一緒に劇をしながら究明してくれる人ということで「補助自我」と呼ぶ。補助自我には、ダブルと対演者がある）そして、それぞれの子どもが、どんな風に振る舞うかを、主演者は、言葉で説明するのではなく、実際に演じて補助自我に知らせる。これは、「役割交換」と呼ばれる心理劇技法で、この技法を通して対演者の直接知らない態度の表演を示したり、正すことができる。さらには、主演者に相互関係を対演者の側から体験することを可能にし、対演者自身としての行為に自分自身をさらしてみることを可能にし、鏡に映すように自分の姿をみると可能とするものである。保育においては、子どもの行為を内側からなぞることによって、子どもの心のありように迫ることができ、また子どもに保育者がどのように見えているかを理解する手助け

になる。

實際の保育状況においては、多くの人間関係が、同時に重層的に展開しており、複雑であつたり、煩雜であつたりする。このような状況を一つ一つ区切り可逆的な展開の可能な心理劇状況において、場面じたてにするプロセスは、状況に対する“見え”的成立を成立させ、煩雜な保育状況を関係構造的に把握することを可能にしている。

劇Ⅰ その後、場面が演じられた。

劇Ⅰ後のNの感想「カズちゃんが泣いていたので、クロダ君は普段から活発な子で、結構パンチとかする子なので、きっとしたのだろうと思った。『何かしたの』とわりと責めていたのかなあと思えてきました。」

このように、保育状況を、実習の時は自分の立場でのみ捉らえているが、心理劇で場面の再現を通して、主演者は、自己に対してある種の距離化がはかれて、そして自分自身との新しい出会いに導かれていく。

劇Ⅱ 役割交代して、保育状況を子どもの立場から再体験する。主演者は、クロダの役を補助自我（対演者）クロダの役は、主演者（保育者の役）をなぞる。

劇Ⅱ後のNの感想「何か責められているような感じで、泣いた子の方は、先生に受け止めてもらっているから、強い感じがして、意地になり、よけい話をしたくないという思いです。集まりの時も自分の気持ちは、誰もわかつてくれないと言う風に考えてしまいます。」

このように役割交代を通してその子の立場で、保育状況を、そして、保育者と子どもの相互関係を体験すると、他人の状況への洞察を発展させ、人との共接感情の受容力を高めることが可能となる。

劇Ⅲ 次に、他の補助自我による保育状況の再現と新しい行為の模索が行われる。

監督では、この場面で自分だったらこうするとか、他

の振る舞い方の可能性が見える人という誘いかけに四年生が、学生Nとは違う振る舞い方を提示した。監督は、主演者Nにクロダの役割を付与し、四年生が、それまでの実習生の役割を取つた。

場面 i 四年生は、まず、クロダの横にしゃがみこん

で、一緒にカズを見ながら、優しくクロダに「カズ君泣いてしまったね」と言つた後、カズにむかつて「カズ君だいじょうぶ」と尋ねる。

場面 ii 四年生はまずクロダを横に寄せて、「今日カズ君泣かしたみたいだけど、クロダ君にも、何か訳あつたんじやないの」と話し、黙つていると「きっとそうだよね。誰か訳知つている人いないかな」と振る舞つた。

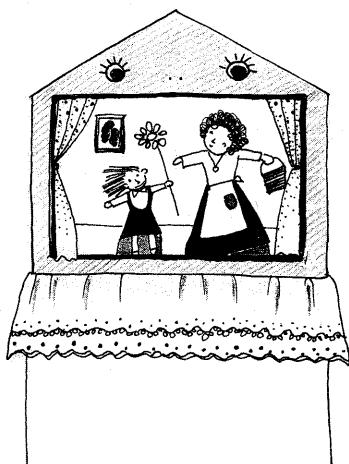
その後、どうしてそのように振る舞つたかを尋ねたところ、「ぶつたとしても、それだけの強い思いがあつたのだし、それに、相手が泣いてしまつて困つてているのはクロダ君だろうから」という意見が出された。

劇Ⅲ後のNの感想「私が、先生の時とは、違います。

生が私をわかってくれる、認めてくれる気がします。

先生が来て、近くにいて一緒に見てくれることにより、強く感じ、頑固になつていて自分を何か和らげてくれて、自分の気持ちが素直に言えるなと思いました。」

モレノは、想像の世界が具現化する時、生まれる補充の現実を「余剰現実」と呼んだ。余剰現実は、過去・現在・未来の出来事の他の諸次元であり、参加者の想像力に働きかけて、新しい自発的な着想や心理劇的状況を創出するのを促進する。



劇 IV

模索した行為による行動実践 この行動実践では、課題状況において試みられる新しい行動の有効性

に関するフィードバックをある程度の満足が伴うよう、つまり、現実の生活において試してみようと動機が成立するように配慮される。

主演者Nは、実習生に戻り、四年生に学びつつ、新しいかわりを試してみる。

場面 i クロダの横に座り、見る行為を共有し、カズに「大丈夫? どうしたの?」と尋ねる。(クロダは何か言うかもしれない、言わないかもしれない)もし、クロダがすまなさそうにしていたならば「クロダ君は、カズ君にすまなかつたと言う顔しているように先生には、見えるけどな」と言う。

場面 ii 発表があり、Nはクロダに「何か訳あつたんじやない」と尋ねてから、みんなに「先生が見た時には、カズ君が泣いていて、クロダ君が何かすまなさそ

と誰か知らないかな。」

監督: クロダ君の役をした人はどんな感じがしましたか。

クロダ役の補助自我: 初めの時より安心して先生に素直な気持ちになれるように思います。

劇 IV 後の N の感想 「実習中の喧嘩の場面に会うたびにいやだなあ、どうしようと言う気持ちでいっぱい心に余裕が全然なく、ただ時間が経つのを待っていて、子どもの気持ちを受けいれようとはしていませんでした。事実を知ることによって、子どもの気持ちを知るうとしていたのが悔やまれます。事実よりも先によくその場面を見ていて、子どもの気持ちを受け止めなければならぬと思いました。保育者の接し方一つでこんなに違うものだと今日身に染みて思いました。」

## 六、総合的考察

① 心理劇は、保育状況を多角的に（相互主体的に）

把握することを可能とする。例えば、クロダの役をとつた補助自我は「思い返してみると、泣いてる子の方にばかり気を取られて、そちらへ先にどうしたか聞いてしまったことがほとんどだった。劇で、自分で泣かせてしまった立場に立ち、初めてこちらの子の気持ちを知ることができたようと思う。もし、本当にこのような状況になつたら、不安で後で泣きたくなるのも当然だと思つた」と感想を述べている。

(2) 心理劇は、保育状況への適切なかかわり、すなわち「臨床保育技術」の発見を可能にし練習を可能にする。この心理劇では、次のような臨床保育技術が発見された。

a、表面的な行為（例えば、ぶつ・泣く）ばかりではなく、その行為にあらわれている子どもの心、内的世界のありようを探り、受け止めることが重要である。

b、集団対一人になると、集団の圧力により子どもは、自己主張にくくなるか、また、その圧力に打ち勝つだけの強い動きになる。この時、一人のサポートを心

がける。この場合の中立というのは、どちらにも加担しないと言うことではなく、一人をサポートすることではないか。なぜなら、一人は集団に押され自己主張ができるにくくなっているので、両方が自己主張できるように援助することが、本質的な中立ということではないか。

c、保育者は、援助するために、まず、事実の推移や原因を探ろうとする。ところが、それは子どもの立場からは、保育者が相対して、何か迫つてくるような体験として成立しやすく、特にこのような状況では、まるで責められているようを感じる。援助するためには、それには、関係の成立があつて初めて見えてくるものであり、子どもが保育者に語りたくなる関係そのものの成立がまず重要である。そして、その関係は、質問形式の言葉の遣り取りでは成立しにくい。まず、横にして、同じ方向を見るなど、さりげなく傍で行為を共有すること、そして見えてくる（感じられてくる）子どもの心のありようを保育者が素直に言葉に表してみることによって、成立しやすくなる。

## 七、対人関係に関する養成課題

子どもの人とかかわる力は、どのような人間関係体験によって育つのだらうか。呑み込んだり、支配したり、突き放す人間関係では、人とかかわる力は育ちにくい。相手も自分も一人の人間として存在を大切にされ、相互にかかわり合い、育ち学び合う関係が基盤となつて子ども保育者も人とかかわる力が育つて行く。そのような

は、これは重要な課題であると言える。  
その意味で心理劇は、一つの人間学的・思想および理論を提供し、さらに養成のための具体的な方法を示してくれる。それは、思惟や省察と言った抽象的で形而上学的神祕に包まれてしまう方法ではなく、軟化の準拠の要因として用いると、それらに比較して、方法論上の利点がある、具体的な方法である。

### 参考引用文献

前田あけみ「保育者養成における心理劇の活用に関する研究（第一報）」富山大学教育実践センター紀要第6号一九九〇年

感受性を高め、今ここで展開する（課題）状況において、自分をその状況の中に入れこんだ相互関係の中で（課題を）捉え直し、さらに、実際その（課題を）解決しうる人間関係が発展するような対人関係的技術を身につけること」が重要であると思われる。特に自己主張の

能力さえも発達途上の幼児にかかわる保育者において

同日本保育学会自主シンポジウム「人とのかかわりで育つもの」  
前田あけみ「保育者養成と心理劇Ⅱ——実習後指導としての活用——」日本保育学会第四四会大会研究論文集一九九一年



ぱ出るの」という話を  
聞くと、うらやまし  
かったものです。

ところが、この一回  
がきっかけで、三日ほ  
どのうちにしつかり“おしつこはオマルで”が身  
についてしまいました。夜のおしめもいらなく  
なったのですから驚きです。

言葉が出るようになつたときも感じましたが、  
小さい子って本当に“急にできるようになる”こ  
とが多いのですね。力をためて、一定量が貯えら  
れてからでないと、外に出  
せないしくみになつている  
のでしょうか。

「三～四日留守にすると  
もう成長している」と、出  
張の多いお父さんは嘆いて  
います。

### \*\*\* ある日の育児日記から \*\*\*

佐藤 和代\*

(9)

娘の圭は、二歳三ヶ月。うんちもおしつこも、  
オマルができるようになりました。  
ここまでくるのは大変でした…なんて書いてみ  
たいところですがウソウソ。このあいだ、ちょっと  
としつこい便秘をしたので、いきむたびにオマル  
に座らせていたのです。そのうち、偶然（と思う  
のですが）おしつこがシャー！  
とにかく圭は、これまで一度も、オマルでお

しつこしたことなかつたのです。保育園ではご  
くたまにできていたようですが、家ではまったく  
ダメ。「うちの子は、タイミングを見て座らせれ

ば出るの」という話を  
聞くと、うらやまし  
かったものです。

ところが、この一回  
がきっかけで、三日ほ  
どのうちにしつかり“おしつこはオマルで”が身  
についてしまいました。夜のおしめもいらなく  
なったのですから驚きです。

パンツがうれしくて、  
誰にでも見せてしまふ

❀❀❀❀❀ 若いお母さんたちへ ❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀

## 見えないものから育つ

榎田 二三子

桜咲く四月、小学校一年生と三年生になる娘たちと共に、親子四人、関東へもどってきました。四年ぶりの我が家です。親は戻ってきた感覚なのですが、子供達にとつてはかなり厳しかったようです。

### 一輪車に集中するA

四年の間、毎年のように友達のところを訪ねていましたので、娘たちには（特に三年の娘Aは）友達が何人かいます。引越しの日から、幼馴染みと遊び始めました。

北陸では、考えられないような春の日ざしのなか、子供達は、外で遊びました。その頃、こちらではやっていたのが一輪車でした。Aは以前にも興味をもち、近所のおじちゃんの一輪車を借りて挑戦していました。そのときは、やってはみたいけれども、そうまわりではやっているわけでもないし、乗れるようになる前に雪のちらつく季節になり、そのまま終わってしましました。ところが今回は、まわりがみんな乗りまわしています。一輪車

を持つていて、なおかつ三年生ですと、自由に乗りまわしていないと一緒に遊べないのです。乗りまわす事を楽しんで遊んでいるのですから。次の日からAの「一輪車買ってよ。」「一輪車が欲しいよ。」という大騒ぎが始まりました。一輪車に乗れるのはサーラスの人、と親は思っていましたし、まわりが乗れているのを見ても本当に乗れるようになるのかしらと思いました。自転車ならまだしも一輪車となるとどんな物がよいのか迷います。あちこち見て歩くうちに、ある日Aが「一輪車買つてくれない」とひっくり返つて大泣きに泣きだしました。あわてて買いに行き、やっと一輪車を手にしたAでした。

手にいれるまでのAの騒ぎかたは、継続的ですごい気力だったのです。そして、手に入れてからのAの一輪車への集中のしかたは、それにも増してものすごいものでした。朝起きて、学校へ行く用意が終わるとマンションの我が家部屋の前で一輪車の練習を始めます。そして学校から帰つてくると、すぐに一輪車を持って外へ飛び出しました。

ます。夕方暗くなるまで、友達と一緒にひたすら一輪車の練習です。一輪車は、ちょっとでも乗つてみたことのある方はおわかりだと思うのですが、乗れることがとても不思議に思える乗り物です。乗ろうとすると、ひつくりかえるの繰り返しです。足やお尻に青あざのたえない毎日でした。一メートル、二メートルと進み始め、一週間たつた頃には、必死にバランスをとるためにすごく変な格好ながらすいすい乗りまわすようになつていました。乗れるようになると、友達何人かと手をつなぎぐるぐる回つたり、バックしたり、止まつたままこぐアイドリングという具合に、まさにサーラスの世界です。マンションの通路や駐車場をぐるぐるまわり、大いに遊びました。

### 集中しないとおもわれるM

ところで、一年生の娘Mはどうしていたかといいますと、遊びまわるAにくつづいて歩いていました。Aが一

輪車に夢中になっているとMもやつてみたいとは思うらしく、取り合ひのけんかが始まります。しかたないので、もう一台買うことになりました。ところが、買ってもらった一輪車は玄関に置かれたままのことが多いのです。一輪車に乗れるようになるには、転んでもひっくり返つても何度も挑戦しなければならないのです。Mは転んだり失敗したりうまくいかないことが、嫌な人でした。だれでもみんな、何かできるようになるには努力しているという事を話して聞かせるのですが、とにかく嫌なのでやめてしまいます。そして、たまに友達とやつてゐるくらいです。親からしますと、Aは集中してやる、Mはどうしてああなんだろう、頑張らないと思いました。

た。小さい頃の記録を見てみました。はいはいを始めた前、目の前に興味を引きそうなものを置くとAは必死にはいざつて行き、摑むのに対し、Mは手をのばして届かないとわかると泣きました。この頃からもう違うのだと思いました。この世に生まれおち母親のおっぱいを飲むことにして、Aの場合には母親も初めてですのでAの口と乳首がうまくドッキングしない、二人とも必死でした。Mのときには母親は慣れたもの、いつも簡単におっぱいを飲ませることができたのです。

### 幼い頃を思い起こすと

頑張つてやらないという事は、何も身についていかないのではないかと思つた私は、なぜだろうと考えまし

るといふ感じのときがあり、Mは自分で遊び始めなくてはいけないけれども、兄弟関係一上にAがいたという事もおおきな影響だったのでしょうか。Aは遊びにおいて燃焼し切る

るといふ感じのときがあり、Mは自分で遊び始めなくてはいけないけれども、兄弟関係一上にAがいたという事もおおきな影響だったのでしょうか。Aは遊びにおいて燃焼し切

は晴れ晴れとした顔をみせてくれることがありました。

けれども、生来の心配性と人付き合いの不得手な事がネックになり、少しあくましくはなつたけれど私が期待したほどではありませんでした。

### 新しい土地での小学校入学

そんな状況でこちらにもどりました。四年ぶりにも

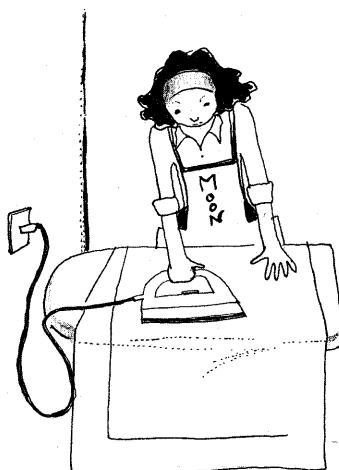
どったとはいえ、Mは物心ついてから北陸育ちですのと、ここでの生活はゼロからの出発です。毎日緊張し、

ランドセルはどこに置いたらいいのだろうとか、学校へ行つたら何をすればいいのだろうか、帰り道がわからなくなつたらどうしようかと、次から次へと心配していく。幸いなことに小学校入学という点でみんな同じスタートラインです。先生も丁寧に教えてくれますし、Aやその友達の支えもあり、にこにこ顔ではありませんでしたが、学校へ通っていました。

### 社会性が低い！

学校になれてくれば、そのうちに友達も増え、行き来が始まるのではないかと思っていました。しばらくたつと同じ下校班の友達と約束をし遊び始めました。しかし、思ったほど仲良くなるわけでもなく、どちらかといふと、Aが帰つてくるのを待つていて一緒にくつついていくという毎日でした。

新しい土地で、なにもかも新しい関係をつくっていく



というのは、Mにとつてとても大変なことであらうと思  
います。幼稚園時代に給食がいやで登園しなくなつた  
ことを思えば、給食でいやなものがでても、嫌だなと  
か、どうすればいいのかとか言ひながらも適当にやり過  
ごせるだけのたましさは、身についていました。けれども、私には不安が残つていました。このときには漠然  
と、群れに加わらない子、人に対する親しみをあまり  
持つていなかる子という感じでしたが、夏休みに心理テス  
トをする機会があつたとき、Mは社会性が低いとい  
うことに気づきました。集中することはないし、社会性  
は低いし、これはいつたいどうすればよいのだろうか、  
と考えてしましました。母親である私との関係にも問題  
があるので、親子でカウンセリングに行こう  
かと本気で考えました。

### 集中して考へているM

夏休みも終わりに近づいたある日、またMの心配性が

始まりました。学校行きたくないよ、この通信簿どこに  
出せばいいのよ、行ってからどうすればいいのよ、何し  
てればいいの、という具合に次から次へと心配しては、  
学校行きたくないよと言つているのです。その度にこう  
したらとか、皆がやることを見ていればわかるわよ、な  
どと言つて学校へ行く気になるようにしむけていたので  
すが、始業式の日には、何ということもなくAと一緒に  
学校へ登校してしまいました。

あの心配性は何だったのと思つたとき、なんだこれが  
Mの集中する姿だったのだと気づきました。目に見える  
何かを集中してやりとげるのではなく、思考というかた  
ち、それもまわりからはマイナスにとられるかたちで集  
中しているMに気づいたのでした。そう気づくと、次か  
ら次へと心配事を並べてMに、もういいかげんにし  
てよと怒らずに、今この子は真剣に考へてゐるのだと  
じつくりつきあえるのでした。

## 自分の中にためるM

山を前にしたとき、がむしゃらに登り始めるのがAだとすれば、まわりからじっくりながめ、いろいろ考えてから少しづつ足を踏みだし、いつのまにか登れていたというのがMでしょう。

じつとながめているM、それは、幼い頃よく見られる光景でした。公園でよその子が遊んでいるのを母親である私にくつづいて見ていました。二歳四か月で北陸へ引っ越しした時も、社宅の子供達が近づいて来るとダメーと言つて私の後ろへ隠れて見ていました。そして、

しだいに遊び始めるというのがMのパターンでした。自分のテリトリーは、しっかりと守り、そこがあつて初めて行動できるようでした。

発語が遅く、手で作り出すことをしない子は、知覚やイメージの蓄積をしているのではないか、という文をどこかで読みましたが、まさにMはそうでした。二歳四か月までアーウーですませていました。Aが一歳八か月の

時にはペラペラしゃべっていたのにくらべると、かなり遅かったのです。工作の好きな子は、ひまさえあればハサミを持つてチョキチョキやっていますが、Mはそのようなことがなく工作のようなことは、ほとんどした覚えがありません。幼稚園時代は自由画帳はまつ白ですし、クレヨンはほとんどそのままでした。本人に聞いてみると、嫌いなんだもんといつていました。ですが、たまたまデザイン的な素敵なもののかくこともあります。そんな時、Mは自分でためたものを消化し、あらわしているのだろうかと思つたりします。

## 見えることにとらわれる

Mのことを考えてみると、私がいかに見えるものにとらわれていたのかと思います。

見える部分や見えていることが普通より遅かたり変わつたりしたので、その部分に目がいってしまいました。ところが、その奥で見えない部分がゆっくり育つ

ていたのです。そしてMは、その見えない部分がじっくりと充実してくると表に見える部分が変わってくるのでした。いえ、これは、誰でもそうなのでしょう。毎日の生活のテンポの早い今、気を付けていないと落としてしまうことかもしれません。よその子については、丈夫よといえても、とかく自分の子となると目先のことにとらわれ、なにが大切な事なのか見失ってしまいます。

### 三学期の初め、Mはやはりいろいろなことを心配し、

行きたくないと言つっていました。けれども、それは二学期よりずっと軽くすんでしまいました。慣れたのだと言つてしまえばそうなのですが、慣れるという表に現れた様子になるまでにMの中でいろいろなものがためられたのだと思います。

Aは、一年生のバレンタインデーの日に好きな男の子にチョコレートをあげたことをずっと黙っていましたし、今は、好きな男の子の名前を友達には言つても私は絶対言いません。Aぐらいの年齢になれば、成長のしるしと思つて受け止めています。ところが、先日唐突に

Aが、「私小さい頃、自分がどこからきたんだろうってずっと考えていました」と、話すのです。Aは一歳八か月から喘息になり、かなり苦しい日々を乗り越えてきました。私が毎日を過ごすことでエネルギーを使い果たしていました。いた頃、Aがアイデンティティーの問題とも思えることを見つめていたことを知り、私が見たり、関わってきたことが子供達のほんの一的部分であつたのだとうづくづく思います。

この世に生まれたそのときから、心や知覚やイメージといった大人からは見えないものが、蓄積され育つていいのだと改めて認識しました。過ぎてしまった時に對し、あーあの時こんな風にするんだったと思うのは誰も同じでしょうが、今という時を共有している人として、見えない部分をたくさん内に持ちあたためている人として、与えられた生活の場で共に歩んで行けたらと思つています。

長い夏休みも終わり、子ども達の日焼けした顔が園庭にもどってきます。この休みの間に、一人一人の子にそれぞれ貴重な生活があり、その体験が、その子を大きく成長させるのでしょう。

\*

息子は二年生になりました。学校から帰ると、ランドセルを放り出して、50円持つてとび出します。水風船で遊ぶのです。ここのことろ毎日、びしょぬれで帰ってくる日が続いています。

「もっと広い所で水遊びしたいのに…」  
ある日のこと、「公園じゃ遊べないから、うちで遊ぶ」と言つて、友達三人ともどつてきて、家の前の狭い私道で遊ぶことになりました。

「公園の水道、使っちゃいけないんだって！」

きっと、水かけっこをやりすぎて、見かねた大人に注意されたのでしょうか。こうやって、子どもから遊びがとり上げられしていくのでしょうか。思いつきり、水かけっこしたいのに……。

「おもろいのか仔犬のようだね。」  
洋服なんかぬれたりたい。おもしろいんだもん」という子どもの声は、聞こえます。（…楽しそう！）

「もう一度聞こえてきません。大人からの注意の言葉に、何となく、素直に納得している子ども達なのです。

本当にできにくい環境になりました。遊ぶ時には思いつきり遊ばせないで、勉強することになると「集中力!!」と要求する

学校の校庭は、大きい子のサッカーや野球の邪魔になり、又、小さい子が走りまわっていると危ない。公園では、他人の迷惑になる。家庭では庭もなく、遊ぶスペースもない。ということで「水遊び、やめなさい」になっていくのです。

家の前では、びしょぬれになつた四人が、何がおもしろいのか仔犬のようだね。」  
じゃあ、大きさを楽しんで遊んでいます。

## 幼児の教育

第九十卷 第九号  
(一九九一年九月号)

平成三年九月一日 発行

編集兼発行人 本田和子  
発行所 日本幼稚園協会

東京都文京区大塚二十一一一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

東京都港区三田五一一  
株式会社 フレーべル館

振替口座 東京九一九六四〇

電話 ○三一三三九二一七七八一

我を忘れて熱中する：そんなことが本当にできにくい環境になりました。遊ぶ

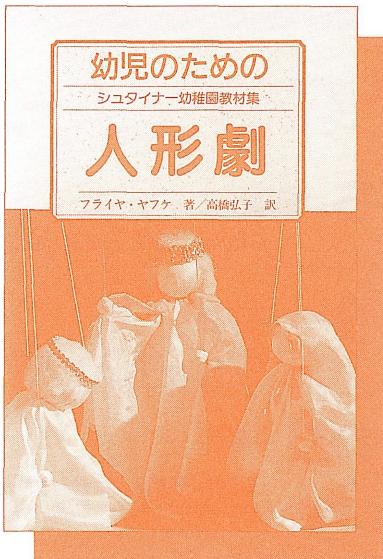
● 本誌購読のご注文は、発売所フレーベル館にお願いいたします。  
● 万一、落丁・乱丁などがございましたら、おとりかえいたします。

シュタイナー幼稚園教材集

# 幼児のための人形劇

念入りに、しかし控えめに仕上げられた美しい人形による劇は、子どものファンタジーを育てます。

- 自然の素材を使ったかわいらしい人形の作り方と、脚本を紹介します。
- 演じ方のこつと、子どもが演じる場合の注意も述べられています。
- 人形劇が幼児の育ちに欠かせないわけを解説されているので、保育に生かせばよいかが分かります。
- ドイツ・シュタイナー幼稚園の現場の保育者による原書と、日本の保育現場で活躍する訳者のコンビなので保育現場にわかりやすい本になっています。



フライヤ・ヤフケ 著

高橋弘子 訳

四六判・132頁・定価1,500円(税込)



くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所または本社総括部(03)3292-7783(代)にお問い合わせください。

キンダーブックの

フレーベル館

新しい幼稚園教育要領を実践するにはどうしたらいいか。単なる語句の解釈や解説にとどまらず、教育要領の基本を踏まえた実践例やエピソードを多く例として示しながら、これから保育の実践の方向を示すシリーズです。保育者養成校の学生はもちろん、現場の先生方も実践や研修のための懇切な手引き書となります。



## 保育内容 実践と研修シリーズ

### こころとからだの育ち—健康—

近藤充夫／落合 優・編著

子どもが園で安定して活動できる条件と援助の方法をたくさんの例で示します。

B5判 208頁 定価1,800円

### 保育のなかのかかわり—人間関係—

森上史朗・編著

今と未来を生きるために人とのかかわりをどう考えどう支援していくか、そのポイントを示します。

B5判 208頁 定価1,800円

### 自然や社会とのかかわり—環境—

中沢和子／藤田復生 他・著

園環境の考え方と設定、子どもと自然や社会とのかかわりのあり方をたくさんの具体例を通して示します。

B5判 208頁 定価1,800円

### ことばからの育ち—言葉—

村石昭三・編著

豊かな感性とイメージを培い、自分の言葉を育てる言葉指導のあり方を具体的に示します。

B5判 208頁 定価1,800円

### 豊かな"表し"に向けて—表現—

黒川建一・編著

新しい幼児の「表現」とは何か。たくさんの具体例を示して総合的な見方と指導を位置づけています。

B5判 208頁 定価1,800円

くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所または本社総括部(03)3292-7783(代)にお問い合わせください。

キンダーブックの  
**フレーベル館**